

継続事業評価調書

【道路事業】

一般国道482号 鶴岡道路

県土整備部

土木局 道路街路課

投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 門間 俊幸 (国道班長 志茂 大輔)	内線	4362 (4378)
------	-------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種目	道路事業	新規評価年度	H16		現計画	新規評価時点
事業名	道路改築事業 一般国道 482 号 鶴岡道路	事業採択年度	H17	総事業費	73 億円 (43 億円) *	68 億円 (38 億円) *
		着工年度	H17	内用地補償費	24 億円 (15 億円) *	16 億円 (7 億円) *
事業区間	豊岡市日高町上郷 ^{かみのごう} ~ つるおか ^{鶴岡}	完成予定年度			H28	H24
		進捗率 (内用補進捗率)			53% (61%) 90% (100%) *	-
		残事業費			34 億円 (4 億円) *	-

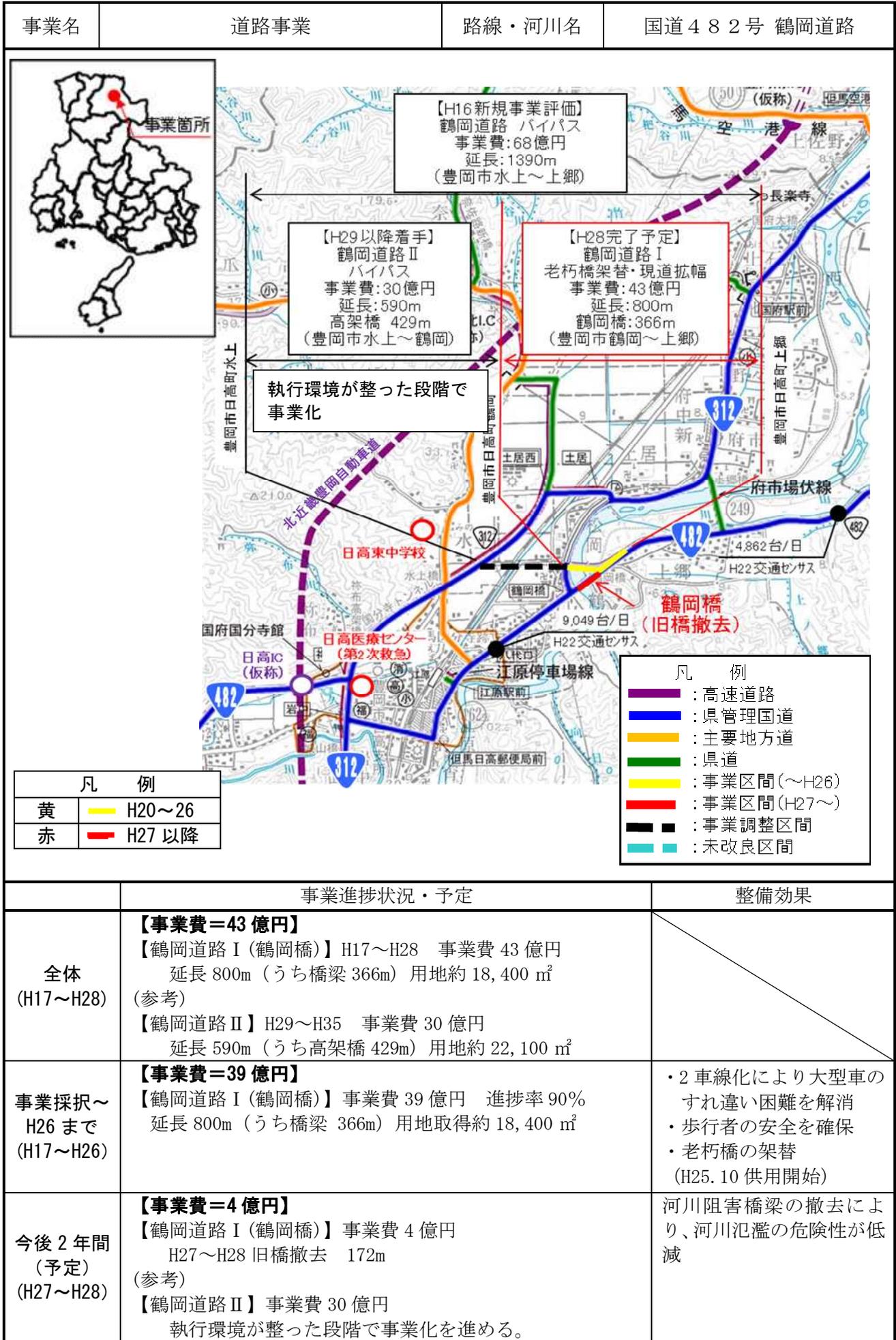
事業の目的		事業内容 【 】: 新規評価時点	
<p>本路線は、北近畿豊岡自動車道とネットワークする但馬地域東西の道路網を強化し、かつ、地域間交流を促進して観光および産業の発展に寄与する主要幹線道路である。</p> <p>○主要幹線道路の早期整備 未改良区間を早期整備し、大型車すれ違い困難箇所の解消、医療福祉施設へのアクセス強化を図る。</p> <p>○安心して利用できる生活道路の機能向上 幅員狭小で老朽化が著しい鶴岡橋を整備することにより、安心して利用できる生活道路としての機能の向上を図る。</p>		<p>全体延長：道路改築 1,390m.....</p> <p>鶴岡道路 I 延長：800m(うち鶴岡橋 366m【359m】) 幅員 計画：2車線 片側歩道 2.5m 車道 6.5m (全幅 10.75m) 現況：1車線 歩道なし車道 5.0m(全幅 5.5m) 計画交通量：4,100 台/日(H42 年予測)【4,200 台/日(H42 年予測)】 現況交通量：4,862 台/日(H22 センサ)【5,069 台/日(H11 センサ)】 【負担割合：国 55%、県 45%】</p> <p>鶴岡道路 II 延長：590m (うち高架橋 429m) 幅員：計画 2車線 片側歩道 2.5m 車道 6.5m 副道(全幅 22m) 計画交通量：7,700 台/日(H42 年予測)【8,300 台/日(H42 年予測)】 現況交通量：4,862 台/日(H22 センサ)【5,069 台/日(H11 センサ)】</p>	

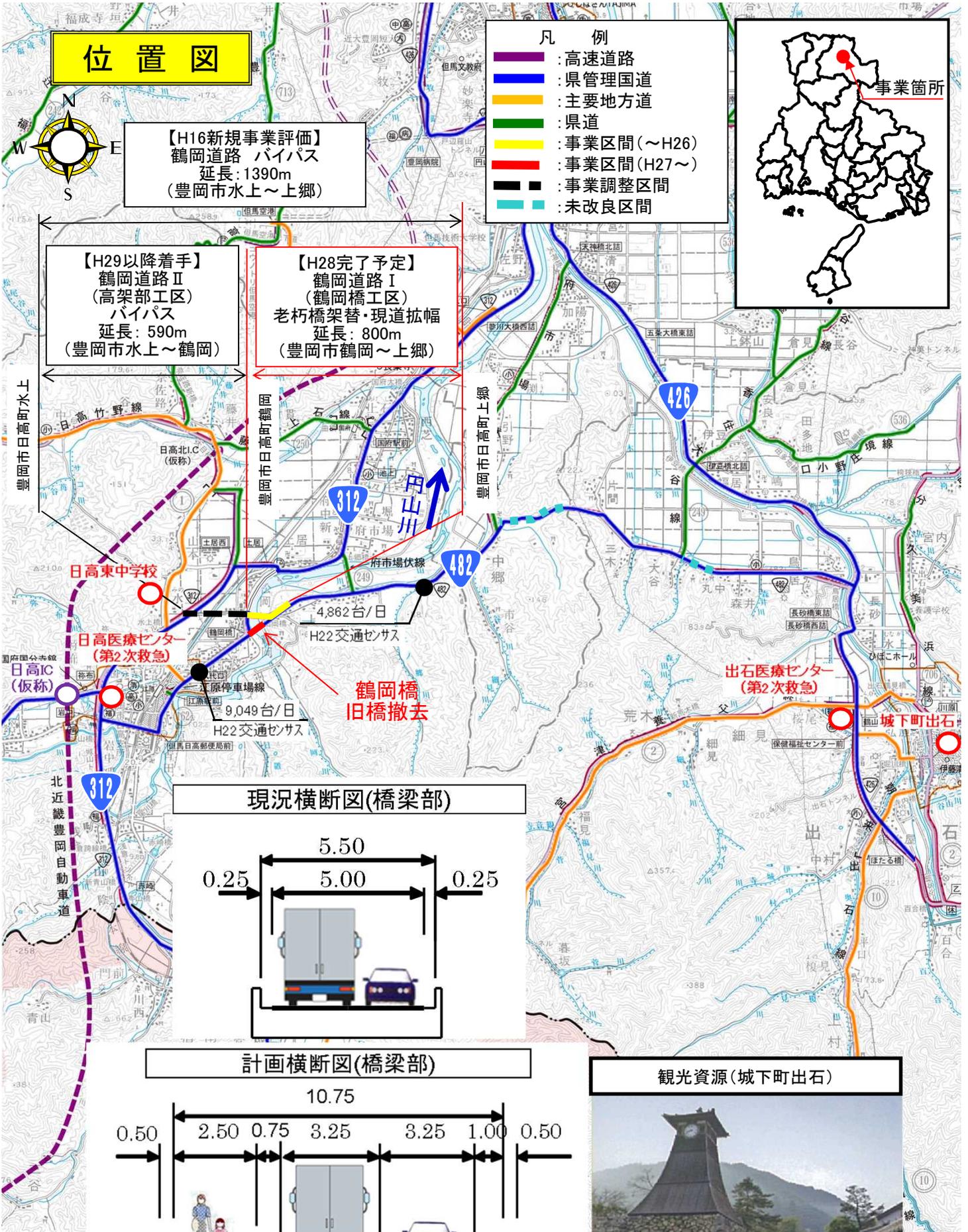
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>【事業計画の変更】</p> <p>① 北近畿豊岡自動車道八鹿日高道路が平成 28 年度供用の見通しが立つなど、周辺道路の整備が着実に進んでいるなか、優先整備区間(鶴岡道路 I)と一時見合わせ区間(鶴岡道路 II)に分け、早期効果発現に取り組む。</p> <p>② 鶴岡道路 I は、老朽橋でかつ未改良区間の「鶴岡橋」があり優先整備区間とする。</p> <p>③ 鶴岡道路 II は、周辺道路の整備に伴う交通量の変化や、地元の協力体制を含めた機運の醸成を適切に見極めた上で新たに事業化することとし、一時見合わせ区間とする。</p> <p>【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要(鶴岡道路 I)】</p> <p>① 橋梁と市道との取付道路等の用地買収範囲の増加により、事業費を 43 億円(内用地補償費 15 億円)に変更する。</p> <p>② 用地取得の遅延・旧橋撤去の複数年施工への変更等により、完了予定年度を平成 28 年度に延伸する。</p>
	進捗状況

評価視点	評価結果の説明	
審査会意見 及び対応方針	<p>【審査会意見】新規着手妥当</p> <p>① 北近畿豊岡自動車道の開通時期が未定であり、それまでの周辺道路の円滑な交通を確保すること。</p> <p>② 流況や護岸に与える影響を考慮すること。</p> <p>③ 下流部井堰に配慮した施工方法とすること。</p>	<p>【対応方針】</p> <p>① 北近畿豊岡自動車道は、八鹿日高道路が H28 供用予定、日高豊岡南道路も工事が進捗しており、早期の供用が見込まれる。</p> <p>② 河川の流況を阻害しないよう橋脚を配置する。</p> <p>③ 汚濁防止フェンスを設置する。</p>
(1) 必要性	<p>① 円山川を渡河する鶴岡橋は、昭和 11 年に架設された老朽橋で幅員も狭く、平成 2 年災害では橋脚が洗掘による被災を受け、早期の架替が必要である。</p> <p>② 現道は但馬地域の東西を結ぶ主要な幹線道路であり、大型車の離合など、安全で円滑な交通を確保する必要がある。</p> <p>③ 二次救急医療機関である日高医療センターや出石医療センターなど、医療福祉施設へのアクセス性の向上が必要である。</p>	
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>① 鶴岡橋の架替・供用により、幅員狭小のボトルネック部が解消された。</p> <p>② 促進期成同盟会より、安全で円滑な交通確保の観点から早期整備の要望を受けている。</p>	
(3) 環境適合性	<p>① 取合道路の歩道部に透水性舗装を採用し雨水の地中への還元を図った。</p>	
(4) 優先性	<p>① 河川を阻害している旧橋を撤去することにより、河川氾濫の危険性が低減される。</p> <p>② 県内有数の観光地である城下町出石(出石城跡、出石そば)へのアクセスルートであり、観光・産業の発展を支えている道路である。</p>	

再評価の結果	継続	理由	鶴岡道路 I は、鶴岡橋の架替・供用により効果が発現され、残工事は旧橋撤去のみであることから事業を継続する。鶴岡道路 II は、一時見合わせ、周辺道路の交通量の変化や執行環境が整った段階で、改めて新規事業評価を受けることとする。
--------	----	----	--

事業進捗状況概要図（継続：再評価）





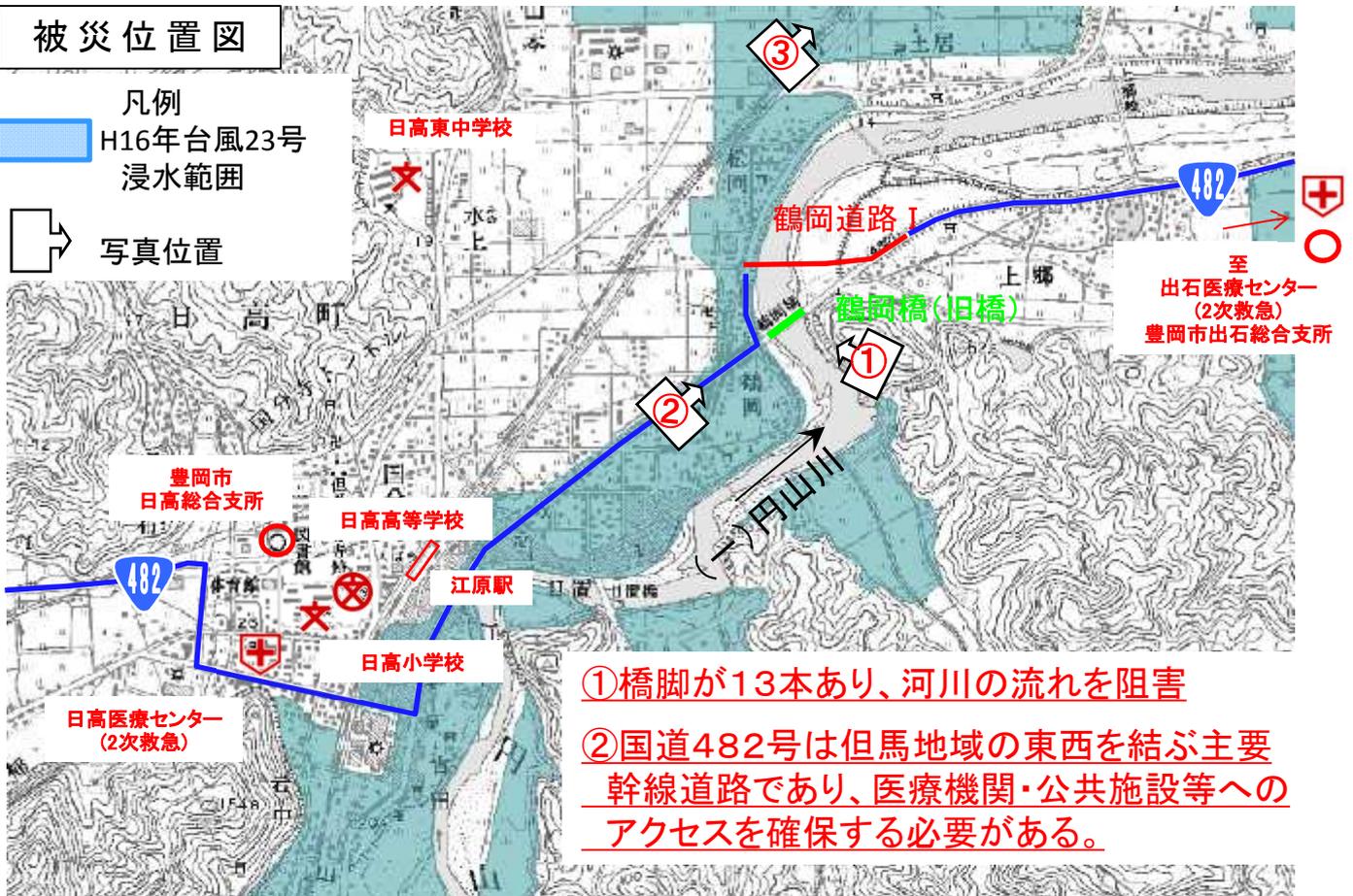
被災状況

平成2年9月 台風19号による被災写真



被災位置図

- 凡例
H16年台風23号
浸水範囲
写真位置



①橋脚が13本あり、河川の流れを阻害

②国道482号は但馬地域の東西を結ぶ主要幹線道路であり、医療機関・公共施設等へのアクセスを確保する必要がある。

平成16年10月 台風23号
道路冠水状況(通行止め)



平成16年10月 台風23号
国府地区 浸水状況



道路-5

1 スケジュール

		H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H
		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
鶴岡道路Ⅰ (鶴岡橋)	測量設計	■			■										
	用地・物件	■			■			■							
	本工事等		■			■			■			■			

■ : 当初計画
■ : 実施・計画

※鶴岡道路Ⅱについては、執行環境が整った段階で事業化を進める。

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無し of 走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365 \text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無し of 走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365 \text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無し of 事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma[\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位}]$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)(百万円)			B/C	
		便益額(百万円)	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費		
道路	一般国道 482号 鶴岡道路 (Ⅰ期)	事業費 (Ⅰ期)	① 走行時間短縮便益	—	—	—	—	—
			② 走行経費減少便益	—				
			③ 交通事故減少便益	—				
			計	—				

(2) 費用対効果に含まれない効果

- ① 大型車すれ違い困難箇所の解消
- ② 老朽橋撤去、新設橋建設による耐震性の向上
- ③ 旧橋の撤去による河川氾濫防止効果
- ④ 新設橋建設によるLCC削減効果(維持管理費の低減)

道路・街路事業の効果

対象事業:道路事業 (国)482号鶴岡道路

(1) 費用対効果

効果項目 (費用対効果の便益内容)	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による、燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

(2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○ 大型車すれ違い困難箇所の解消 二次救急医療機関等へのアクセス強化
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○ 老朽橋撤去、新設橋建設による耐震性の向上
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○ 河川阻害橋梁(旧橋)の撤去に伴う河川氾濫の防止効果
	平時	救急医療体制の支援	○ 日高医療センター(二次救急医療機関)へのアクセス時間の短縮
		交通安全対策	○ 歩道の整備による歩行者の安全性確保
	②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 慢性的な交通渋滞解消による、移動時間の短縮
中心市街地の活性化		○ 慢性的な交通渋滞解消による、移動時間の短縮及び、歩道の整備による沿道利活用の向上	
地域産業の活性化		○ 慢性的な交通渋滞解消による、移動時間の短縮	
観光支援		○ 城下町出石へのアクセス性向上による観光支援	
地域プロジェクト等支援		— —	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○ 日高ICへのアクセス性向上及び、公共バスの利用促進	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 慢性的な交通渋滞解消による、沿道環境の改善	

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	当路線の整備促進期成同盟会(豊岡市・香美町)が設立され、同会から毎年、土木事務所に未改良区間の早期整備を求める要望がある。
-------	---

【事業の変更経緯等を示す資料】

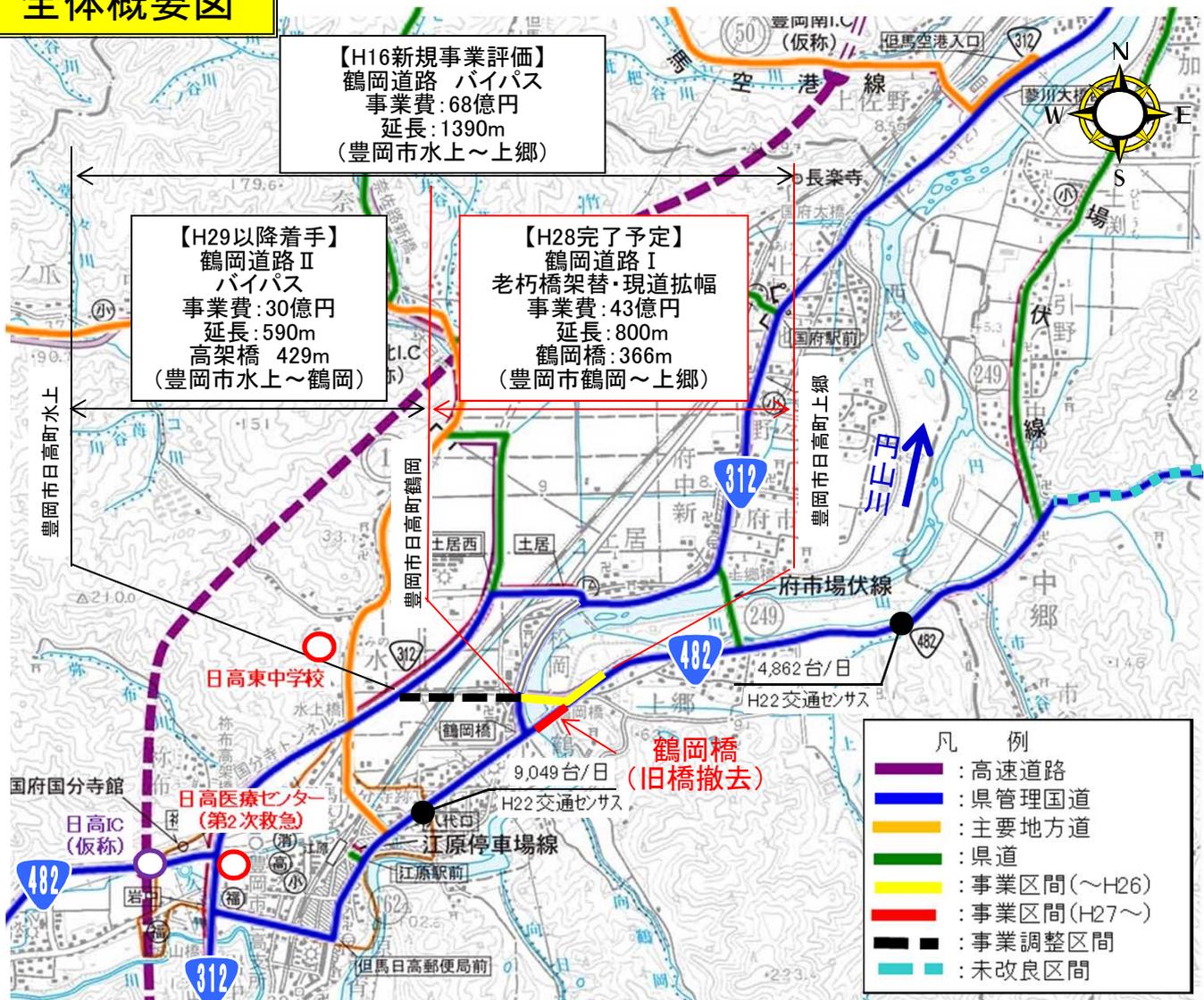
【当初計画】

	鶴岡道路
着手年度	平成17年度
完成予定年度	平成24年度
総事業費	68億円
事業延長	1,390m
事業区間	豊岡市日高町上郷～水上

【工区分割後】

	鶴岡道路Ⅰ期	鶴岡道路Ⅱ期
着手年度	平成17年度	未定
完成予定年度	平成28年度	着手後6年
総事業費	43億円	30億円
事業延長	800m	590m
事業区間	豊岡市日高町上郷～鶴岡	豊岡市日高町鶴岡～水上

全体概要図



【事業変遷】

- 平成16年度: 事業評価(新規)
- 平成17年度: Ⅰ期区間事業着手
- 平成25年度: Ⅰ期区間供用開始
- 平成26年度: Ⅰ期区間旧橋撤去開始
- 平成26年度: 事業評価(継続)

